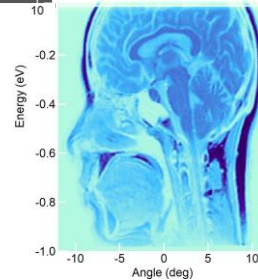
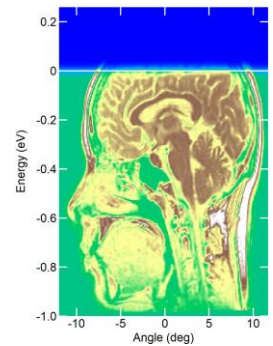
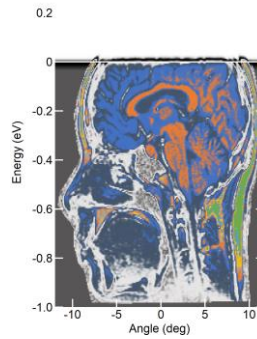
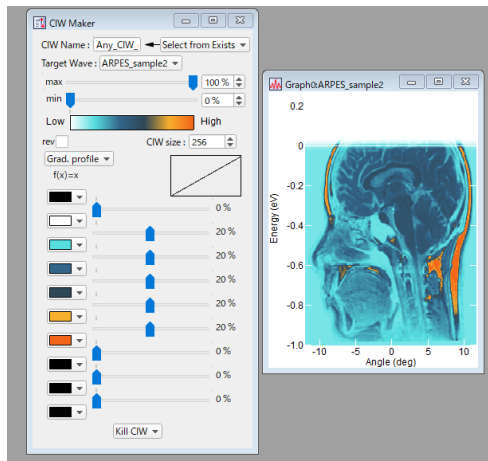


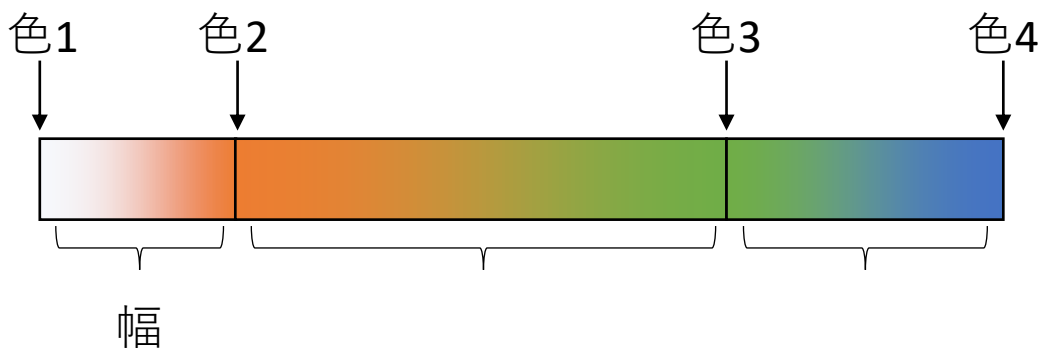
# Any\_CIW.ipf



任意のグラデーション（Color Index Wave）を作成する。

グラデーションを決める三要素

- ・ 色の数、種類
- ・ 色と色の幅
- ・ 色間の補間関数



これらを任意に調節し、  
それぞれのARPESデータに適した  
カラスケールを作成できるigorマクロです。

作ったカラスケールの情報は.ibwファイルとして  
保存すれば、他エクスペリメントで利用できます。

## ●インストール

1. Any\_CIW.ipfをigorで読み込む
2. CIW\_templateフォルダをUser Procedureフォルダ直下に配置  
(任意の場所にしまいたい場合、ソースコードを改変(後述))

## ●パネルの呼び出し：上部メニュー> Macro > Call\_CIW\_Maker

ここで"フォルダを探してます"と出たら、はいを押してCIW\_templateフォルダを指定する。いいえを押せば無視される。

## ●データフォルダ構造 root:Any\_CIW:

└Gallery: 作成したCIWの出力先  
└info: CIWを作るための情報  
└misc: 作業ファイル

## ●パネル操作

CIWで表示したいデータの最大値と最小値  
Target Waveを設定すると、  
そのWaveのMinとMaxが  
自動で適用される

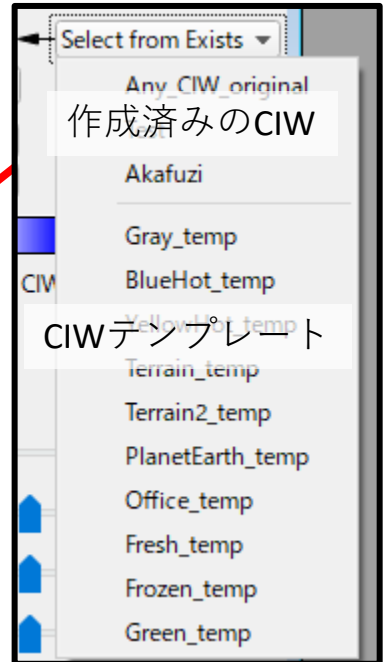
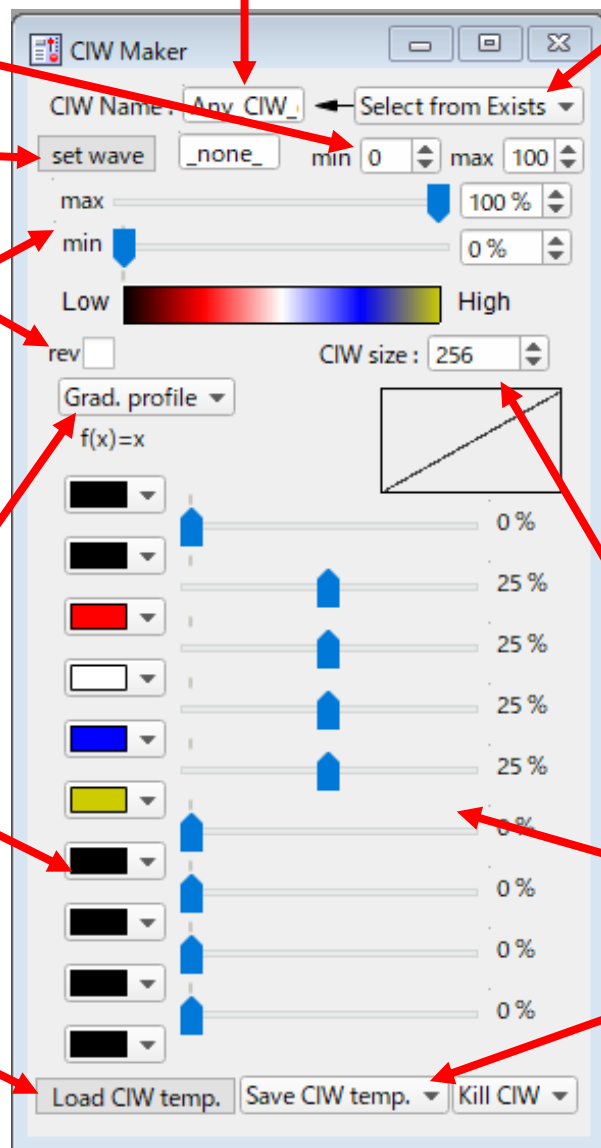
カラスケールの  
範囲・反転を制御

補間関数の選択  
右の窓に表示される

色の設定  
(最大10色)

保存したCIWテンプレートの読み込み

CIWの名前



色の変化数  
(CIWのサイズ)

幅を操作するスライダ

CIWテンプレートの保存

CIW\_templateフォルダに保存しておけば起動時に自動で読みこまれる(後述)

- イメージのプロット、CIWの割当は手動です。
- Color Table Wave (igor7以降)としても使用可能。その場合、Target Waveの指定は無意味。
- CIW Nameに\_tempをつけると、テンプレートが生成される。

## ●CIWテンプレートの作成

テンプレート化したいCIWがパネルに表示されている状態でCIW nameを“好きな名前\_temp”とする。

## ●CIWテンプレートの保存

一度作ったCIWテンプレートを何度も使いたいとき、パネル下部のSave CIW temp.から選択し、保存する。このとき、ファイル名は必ず“CIW\_好きな名前\_temp.ibw”になっている必要がある。

## ●保存したCIWテンプレートの読み込み

パネル下部のLoad CIW temp.ボタンを押し、“CIW\_好きな名前\_temp.ibw”のフォーマットで保存されているファイルを選択する。パネル上部のSelect from Existsの中に“好きな名前\_temp”として格納されている。

## ●CIWテンプレートの自動読み込み

よく使うCIWテンプレートは、User Procedures直下のCIW\_templateフォルダに格納しておけば、マクロ呼び出し時に自動的に読み込まれる。よく使うCIWテンプレートの格納先を変更した場合は、そのフォルダのフルパスをAny\_CIW.ipfソースコードのUSERFOLDER文字列変数に格納すればよい。